

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 2019年 12月 26日

事業所名： フラープ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	プレイルームと横の本の部屋の時にはオープンにして、活動を広く使えるようにしている。学習の場も別にある。	・フラープに変わってからの状況が分からない為。 ・部屋の中を見学したい。 ・されていると思う。	その時々に応じて部屋を広げて大きく使ったりすることもある。
	2 職員の適切な配置	来ています。	・子供の様子を丁寧に見て下さっている。 ・子どもにとって良い方ばかりだ。	適切な配置をしている。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	バリアフリーではないが、安全を心がけている。	・バリアフリーはわかりませんが子供に配慮されていると感じている。 ・民家を利用しており、玄関等段差が見られる。	バリアフリーとは言い難いが段差にはマット等をひいてフラットにしているようにしている。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	心がけている。	・子どもはのびのび過ごせてるので当てはまると思う。	除菌等をして清潔にするよう心がけている。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	出来ている。会議をする時間や日々の反省等も職員同士心かかげている。	/	現状維持で継続していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施できていない。	/	実施していません。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	行っている。	/	これからも継続していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	子供の姿、親の意見も聞きながら作成する。	・色々な子供達が居る中みんなが取り組めて楽しく自信がつく様な支援をされてると思う。	その時々で変わる子供達の様子を保護者から聞き、作成していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	職員同士話し合いながら行っている。		対応できるよう話し合ったり、面談していくことも考える。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	日誌に書くようにしている。		今後も日誌に記入する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画を考慮しながら行っている。	・職員さんがとてもよく話を聞いてくださり子供に応じた対応をして頂いていると思う。	継続して、支援計画を考慮しながら行っていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	月案づくり日案づくりをして話し合い立てている。		今まで通りみんなで話し合い立案する。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	要望に添えるように考えている。	・毎回工夫して頂き子供に良い支援をしてもらえると感じている。 ・色々な体験をさせて頂いている。 ・子供も毎回行く事を楽しみにしてるぐらいだ。	夏休みや土曜日など、時間に余裕がある時にしか出来ないことを工夫して活動する。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	スタッフ皆で話し合い新しいものを取り入れるよう考えている。		スタッフ皆で話し合い新しいものを取り入れるよう考えていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	その日の流れを話し合う。日誌にも記入している。分からないことは聞いておく。		日々の打ち合わせを大事にする。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	毎日反省会をしその日のうちにしっかり話し合いをする。そして次回につなげていく。注意すべきことは休んだスタッフにもしっかり伝える。		今後も継続して、毎日反省会をしその日のうちにしっかり話し合いをし、次回につなげていく。休んだスタッフにもしっかり伝える。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	反省もして、改善についても話し合っている。		今後も継続していく。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回の支援計画に向けて見直しもする。		定期的なカンファレンスを実施していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	会議があれば参加する。担当者も同行している。		今後も継続していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	利用者なし。		利用者なし。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	利用者なし。		利用者なし。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	送迎時での話し合い。情報共有をしている。		必要に応じて連携会議を持つようにしていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	父母会において見学を企画。		父母会において見学を企画する。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	案内が届き次第職員へ配布、受講も勧める。		積極的に研修へ参加するようにしていく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	機会はない。	・個別保育のため他の子供との交流はなく、他のクラスについては知らない。	地域との交流の場が持てるように働きかけていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	機会はない。	(ご意見なし)	地域との交流の場が持てるように働きかけていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に伝える。	・あった。	今まで通り契約時に丁寧に説明する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談を半年に1回取るようにしている。また何かの必要性があればその都度話しする場を作っている。	・あった。	今まで通り、面談を半年に1回取り、何かの必要性があればその都度話をする場を作る。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者の集まる企画を年12回。勉強会トレーニングの日なども組み込んでいる。	・個別保育の中で相談にのって頂いている。 ・色々考えて頂いていると思う。	現状維持で継続していく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳にて知らせたり送迎時に話すなどしている。	・毎回様子をきちんと教えて頂いてこちらの困り事もその度対応してもらっている。	送迎時に話せない場合は、連絡帳またはお電話で話をする。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談があれば速やかに対応している。	・定期的に面談して頂きの確なアドバイスもいただき助かっている。	今まで通り相談があれば速やかに対応する。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者の集まる会、行事にて家族参加のものもある。	・なかなか参加させてもらってないが毎月交流会があるみたいだ。	誰でも気軽に参加出来るようにお声がけする。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情があれば話を聞き改善することはすぐに対応できるようにしていく。	・話をした事にすぐに対応して頂いている。 ・その場面に出会ったことがないので分からない。	苦情があれば話を聞き、すぐに対応できるようにする。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	ライン、メール、電話などで伝えていく。	・毎回きちんと情報をわかりやすく伝えてもらっている。	情報伝達は速やかにする。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	SNSでの発信、おたより毎月。	・お手紙で写真などを入れ、わかりやすく子供達の様子を確認させてもらっている。	毎月のおたよりの発行、ブログも定期的に更新する。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	新学年や新しく入って来られた方に同意の許可をもらうなどしている。	(ご意見なし)	同意をもらい取り扱っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	感染症(バケツにナイロン袋、手袋、新聞を用意している)消毒も所々に置いている。	(ご意見なし)	今まで通り、感染症(バケツにナイロン袋、手袋、新聞を用意している)消毒も所々に置く。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的にやっていく。	(ご意見なし)	定期的にやっていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	研修案内の発信や報告会を行う。		子供達の小さな変化を見逃さないようにする。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	そのような場面がある時には、前もって保護者にお話します。そして家族の了解を得て行う。		そのような場面がある時には、前もって保護者にお話します。そして家族の了解を得て行うようにする。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	お弁当である。アレルギーについては親に確認している。		今まで通り、調査票に記載してもらい対応する。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	出来ている。		継続して共有する。